

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp



写真発祥地の原風景 長崎

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

2018年3月6日(火) — 5月6日(日) [4月9日(月)に展示替えを行います]



プロイセン東アジア遠征団写真班 《(長崎パノラマ)》(部分) 1861年 東京都写真美術館

展覧会概要

東京都写真美術館では、古い写真に関する新たなシリーズである「写真発祥地の原風景」を開幕します。このシリーズでは、日本の写真発祥地と言われる3都市にフォーカスし、初期写真*を核に幕末・明治の日本を展示室に再構築します。第一段となる本展は、「明治150年」を記念し、長崎学に造詣の深い姫野順一博士（長崎外国語大学特任教授／長崎大学名誉教授）監修のもと、写真を中心としたオリジナル作品のほか、古地図や絵画・工芸作品など、ジャンルや時代を超えて、幕末・明治の「長崎」を展示室に再構築します。

*初期写真(Early Photograph)とは、古写真のなかでも特に19世紀の写真を指します。

初期写真を紹介する展覧会の新シリーズ

東京都写真美術館は、日本における写真文化のセンターとして、初期写真に焦点を当てる展覧会を毎年3月から5月に開催しています。これまで10年以上にわたり、初期写真に関する日本全国の公開機関への調査研究をまとめた「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」展を隔年で開催し、「フェリーチェ・ベアトの東洋」(2012年)や「下岡蓮杖」(2014年)などの個展も開催してまいりました。新章となる本シリーズは、「写真発祥地」に焦点を当て、日本の写真文化発展の源流を考察するとともに、初期写真の記録性に着目します。

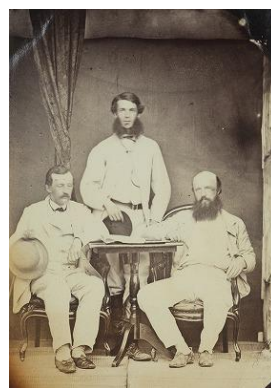
写真の伝来から、普及が早ければ早いほど、その土地の写真は多く残されています。写真発祥地では、近世から近代の日本の姿を克明に記録した写真が大量に制作されました。長い歴史のなかで、何度も繰り返し撮影された被写体としての「長崎」を、写真を通して多角的に捉えることで、土地の空間構造や時代感覚を掴むことができるでしょう。現代の私たちが決して訪ねることが出来ない、幕末・明治の長崎にタイムトラベルをする臨場感を、集積された初期写真・資料等からお楽しみいただけます。「写真発祥地の原風景」はシリーズとして展開し、今後「北海道編」、「東京編」を開催予定です。

ここに注目！

明治 150 年

150年前に大政奉還が行われ、日本は西洋的近代国家へと向かいます。開国期に渡来した写真技術は、近代化の歴史を視覚イメージとして記録し、現在にその日本の姿を伝えています。また、本展は内閣官房が主唱する「明治150年」を記念するとともに、長崎大学附属図書館の幕末・明治期日本の写真データベース公開20周年を記念し、同学と共同で開催いたします。

A. F. ボードイン 《ボードイン兄弟とその友人》1865年頃 鶏卵紙 長崎大学附属図書館



“異域” 長崎

江戸時代、長崎は、西洋と東洋の文化が交差融合し、独自の文化が発達する特殊な地として、日本国内からも留学（遊学）先として栄えました。ピエール・ロシエ（1829-1886）や、フェリーチェ・ベアト（1834-1909）などの外国人写真師が海外から訪れ、招聘オランダ人医師A. F. ボードイン（1820-1885）もピントグラスの前に立ち、長崎滞在中に数々の写真を残しました。さらに、写真開祖と呼ばれる上野彦馬（^{うえのひこま}1838-1904）・幸馬（^{さちま}1841-1896）をはじめ、内田九一（^{うちたくいち}1844-1875）、^{ためまさとらぞう}為政虎三（1871-1948）などの日本人写真師が長崎を拠点に制作を行い、写真文化を普及しました。

版元無記《紅毛人遠見之図》江戸後期 多色刷木版 長崎歴史文化博物館
※展示期間は3月6日(火)～4月8日(日)です



写真は「物」

写真は写されたイメージだけに注目が集まりがちですが、写真の大きさや、それを支える台紙、写真帖の様式には、当時の情報を伝える重要な手がかりが多く残されています。本展では立体的な展示により、「物」としての写真を感じられるしつらえをご紹介します。

参考図版：

「夜明けまえ 知られざる写真開拓史 総集編」(2017年3月7日-5月7日) 展示風景



幕末⇔2018

2階ロビーでは、本展の出品作、フェリーチェ・ベアトが1864年に撮影した《長崎のパノラマ》と、2018年現在の長崎風景を比較できる撮影コーナーを特設します。150年以上の歳月を隔てた時間旅行の記念に、自由に撮影を楽しみいただけます。

展示構成

第一章 江戸期の長崎

本章では、日本写真史の起点となった長崎とその文化を国内外の視点から浮き彫りにします。多人種が往来する貿易の町である長崎(=“異域”)がいかに特殊であったのか、版画、古地図、旅行記などの貴重な資料により、写真以前の姿を浮き彫りにします。

縄屋版《駱駝図》江戸後期 多色刷木版 長崎歴史文化博物館
※展示期間は4月10日(火)~5月6日(日)です



第二章 長崎と写真技術

長崎を訪れた外国人写真師とともに、幕末・明治の写真技術と長崎の写真師を紹介します。日本人が撮影した最古の写真《島津斉彬像》(1857年)を撮影した器材と同時期に制作された木製スライディングボックスカメラ、上野彦馬が使用したカメラや携帯暗室を展示するほか、ステレオ写真(3D写真)のプロジェクトで立体感の再現を行います。

上：ピエール・ロシエ《(雨の日の日本人たち〔出島〕)》1860年 鶏卵紙

下：ヴィルヘルム・ブルガー《武士の挨拶》1868年 鶏卵紙

ともに 長崎大学附属図書館(中央図書館)



第三章 長崎鳥瞰

文久元（1861）年に撮影された外国人写真師によるパノラマ写真を皮切りに、第一世代の日本人写真師をはじめ、多くの写真師たちが長崎港および長崎市街を広く捉えた写真を制作しています。これらの作品群により長崎の空間をマクロな視点から多面的に再構築します。

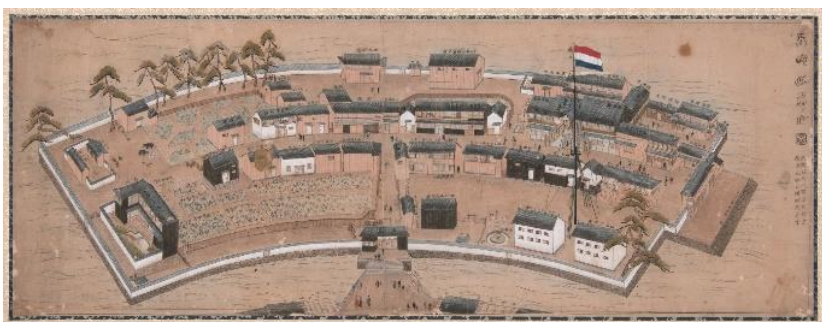
国内で所蔵される日本最古のパノラマ写真

プロイセン東アジア遠征写真班《(長崎パノラマ)》1861年 鶏卵紙 東京都写真美術館

※（ ）は原題が不明なため、適宜タイトルを付した作品を示します。

第四章 クローズアップ長崎

終章では、視点をミクロに移し、長崎最大のアイコンである出島の変遷を筆頭に、居留地や諏訪神社、中島川を含む市街、対岸の稲佐地区、高島炭鉱に至る、様々な姿をクローズアップします。また、風俗や人物にも視線を向け、長崎を代表する祭礼“長崎くんち”を捉えた明治中期の写真や、幕末・明治のロマンである《フルベッキ集合写真》を展覧します。



1



2



3



4



5

1：川原慶賀《長崎出島之図》江戸後期 絹本着彩 長崎大学附属図書館 経済学部分館

2：フェリーチェ・ベアト《眼鏡橋》1866年頃 鶏卵紙 東京都写真美術館

3：製作者不詳《長崎風物図箱》幕末期 長崎青貝細工 長崎歴史文化博物館

4：上野彦馬《高島炭坑・北浜井坑》『上野彦馬手控えアルバム』より 明治初期 鶏卵紙 日本大学芸術学部

5：上野彦馬《フルベッキ集合写真》1868年頃 鶏卵紙 長崎歴史文化博物館

出品点数

計 306 点 (第一章 64 点 / 第二章 45 点 / 第三章 55 点 / 第四章 142 点、展示替あり)

出品作家・作品

写真 ピエール・ロシエ、フェリーチェ・ベアト、ライムント・フォン・シュティルフリート、
A. F. ボードイン、上野彦馬、内田九一、薛信二郎、竹下佳治、清河武安、為政虎三 ほか

写真器材 ウェブスター スライディングボックスカメラ、スライディングボックス ステレオカメラ、
携帯暗室 ほか

絵画、版画 司馬江漢、川原慶賀、磯野文斎 ほか

刊本 フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト、ヨハネス・ポンペ・ファン・メルデルフォールト、
川本幸民ほか

地図 《肥州長崎図》長崎大学附属図書館、《大浦居留地図》長崎大学附属図書館 経済学部分館 ほか

関連事業

長崎をめぐる初期写真シンポジウム—オリジナルとデジタルアーカイブ

2018年4月7日(土) 14:30-17:30 (14:00 開場)

幕末・明治の初期写真における長崎、長崎における初期写真の歴史、また、デジタルアーカイブの可能性を踏まえたこれらの活用について研究者の視点から発表いただくとともに、将来にわたる初期写真の活用をオリジナルとデジタルアーカイブの両面から討議します。

登壇者：高橋則英（日本大学芸術学部写真学科教授）

天野圭吾（写真研究家）

姫野順一（長崎外国語大学外国語学部国際現代英語学科教授・長崎大学名誉教授）

下田研一（長崎大学附属図書館情報管理課情報管理班長）

北本朝展（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 准教授）

会場：東京都写真美術館 1階ホール 定員：190名

※当日10時より1階ホール受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

古典技法ワークショップ：コロディオン湿板制作デモンストレーション

2018年4月14日(土) 14:00-16:30

コロディオン湿板の制作プロセスを見学することで、当時の写真技術を知る絶好の機会です。終了後に、4月28日(土)開催のコロディオン湿板制作ワークショップ（有料・デモ参加者対象）の申し込みも受け付けます。詳しくはホームページ（www.topmuseum.jp）をご覧ください。

会場：東京都写真美術館 1階スタジオ 定員：50名、入場無料、先着順。

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめご了承ください。

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日、4月29日、5月3日、5月5日の14:00より担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット（当日印）をご持参のうえ、自由にご参加いただけます。

Gallery Talk in English

2018年3月16日（金）14:00－／4月20日（金）18:00－

アリス・ゴードンカー氏による英語解説を行います。展覧会チケット（当日印）をご持参のうえ、自由にご参加いただけます。

巡回情報

本展は、長崎県歴史文化博物館（2018年5月22日－6月24日）に巡回を予定しています。

展覧会図録

『写真発祥地の原風景 長崎』

執筆：河野学（長崎大学長）、姫野順一（長崎外国語大学特任教授／長崎大学名誉教授）、天野圭悟（写真研究家）、三井圭司（東京都写真美術館学芸員）

発行：東京都写真美術館

価格：2,000円（税込）A4判、全196頁、和英併記

開催概要

写真発祥地の原風景 長崎

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

会期 2018年3月6日（火）－5月6日（日） ※4月9日（月）に展示替えを行います
前期：3月6日－4月7日／後期：4月9日－5月6日

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
国立大学法人長崎大学／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛 ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網／
東京都写真美術館支援会員

協力 長崎県／長崎県観光連盟／長崎市／長崎歴史文化博物館

後援 オランダ王国大使館

会場 東京都写真美術館 2階展示室 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00－18:00（木・金は20:00まで）

休館日 毎週月曜日 ただし、4月30日（月・振）、5月1日（火）は開館

観覧料 一般 700(560)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 500(400)円

※（ ）は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版（参考図版を除く）をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は、下記広報担当まで連絡ください。掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目の下記図版ご提供させていただきます。

プロイセン東アジア遠征写真班《(長崎パノラマ)》(部分) 1861年 鶏卵紙 東京都写真美術館

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングはできません。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館

1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 www.topmuseum.jp

展覧会担当 三井圭司 k.mitsui@topmuseum.jp 伊藤貴弘 t.ito@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp

ごあいさつ

「明治 150 年」を記念する本年、写真発祥地を核に幕末・明治の姿を再構築する連続展の第一弾である「写真発祥地の原風景 長崎」を開催します。

本展は長崎大学の幕末・明治期の古写真データベース 20 周年を記念し、同学と共同開催いたします。

1839 年 8 月 19 日、世界で最初の写真方式、ダゲレオタイプがフランス政府によって公開され、「写真」が産声を上げました。その約十年後、長崎の上野俊之丞の手によって、嘉永元（1848）年はじめて日本に写真機材一式が輸入されます。日本人が日本人を撮影した現存する最古の写真である《島津斉彬像》は俊之丞が輸入した機材を用いて制作されました。

長崎は日本の写真文化の起点です。

海外に開かれた港町としても栄えた“異域”長崎は、ピエール・ロシエやフェリーチェ・ベアトなどの外国人写真師が訪れて写真を制作しました。

また、幕末・明治には、上野彦馬、内田九一をはじめ、薛信二郎、為政虎三などの日本人写真師が誕生し、長崎は日本の写真文化が開花していく核となります。

写真の普及が早ければ早いほど、その土地で制作された写真の量は多くなります。写真発祥の地では幕末の早い段階から写真が制作され、激動の時代に揺れる街や人の姿が写真技術によって記録され続け、現代に伝えられています。当時の人たちが目にしたオリジナルの写真そのものが、先の大戦を生き抜き、平成から次の時代へとバトンを渡そうとしています。

本展を通して、幕末から明治へと移り行く長崎を写真と資料によって旅し、写真が持つメモリアルな力によって、かの時代のリアリティを感じて戴ければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたりご協賛・ご協力いただきました関係各社・関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

主催者

長崎大学のインターネット・アーカイブ

「幕末・明治期日本古写真データベース」について

長崎大学では附属図書館が中心となり、昭和 63 (1988) 年以来、幕末から明治にかけて日本国内で撮影された写真を収集し、今では 7,000 点を超える国内最大規模の「幕末・明治期日本古写真コレクション」を有しています。また、平成 10 (1998) 年、インターネットに公開した「幕末・明治期日本古写真データベース」は、年間 200 万件を超えるアクセスがあり、ポータルサイトで「古写真」を検索すると最上位でヒットするなど、この分野の代表的なデジタル・アーカイブになっています。

写真の日本伝来は、1848 年に長崎の御用商人であった上野俊之丞が、出島を介して写真機材一式を輸入したことに始まります。長崎ではその後、西洋医学を伝えたオランダ人教師たちによって、化学の応用分野として写真術が紹介されました。本学が所蔵する幕末の『ボードインアルバム』はオランダ人医学教師 A. F. ボードインとその弟で長崎オランダ領事であった A.J. ボードインによるものです。また、俊之丞の子で日本最初期の写真師となった上野彦馬は当時を代表する日本人化学者でもありました。

1857 年 11 月 12 日、オランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトにより始められた「医学伝習」を自らの起点と位置付ける長崎大学は、現在、「日本古写真の世界拠点」形成を、達成すべき中期計画のひとつに掲げています。日本近代化の諸相を活写した幕末明治期の写真は、当時来日した西洋人にとっては「東洋の神秘の国」日本の姿を自国に伝える日本土産でもあり、海外に大量に輸出されました。現在、日本の古写真は、国内のみならず、海外にも多数残存しています。このような日本古写真を活用するための世界拠点となるインターネット・アーカイブが待望されます。

「明治 150 年」にあたる今年、本学においては古写真の収集を開始して 30 年、同データベースを公開して 20 年の節目を迎えております。今後は、劣化の激しい所蔵古写真の修復保存に努めるとともに、国内外の所蔵機関と連携して、日本古写真デジタル化情報の精度を上げることにより、学術資源としての日本古写真の価値をより一層高めることを目指します。本展は、これまでの活動の集大成であるとともに、新たな目標に向けた第一歩であり、このような機会を与您いただいた関係各位に深く感謝いたします。

長崎大学長 河野 茂